

**授業概要**

私たちの身の回りを見ると、企業のさまざまな商品やサービス、採用や人事異動、新たな研究&開発など企業の情報があふれるほどあります。そうした情報の多くはインターネットやテレビ、新聞、雑誌など様々なメディアを通じて私たちに届くものです。そんな企業情報の中で、本講義は株主や投資家など金融市場に向けた情報開示を取り上げます。金融商品取引法や取引所規則などによる法的開示やESG(環境・社会・ガバナンス)情報など各社の自主的な情報開示を具体的に追って、企業情報が拡散する仕組みを理解しましょう。そして監督当局や各社の取り組みや株主・投資家など市場の対応について学びます。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	①宣伝と広報の違い ②メディア向け広報と投資家向け広報
第 2 回	日本企業の発信情報	(1) 印刷情報とデジタル情報
第 3 回		(2) 法的規制の情報発信/任意の情報発信
第 4 回	(I) 法的開示	(1) 有価証券報告書と決算短信
第 5 回		(2) 財務諸表と非財務情報
第 6 回		(3) 決算説明会資料、コーポレートガバナンス報告書
第 7 回		(4) 株主総会：議決権行使書/事業報告
第 8 回	(II) 任意開示	(1) 株主通信
第 9 回		(2) 会社案内/アニュアルレポート
第 10 回		(3) 統合報告書とESG(環境・社会・ガバナンス)情報
第 11 回	(III) デジタル情報の時代	(1) 企業ウェブサイト・IR サイトの展開
第 12 回		(2) モバイルとソーシャルメディア
第 13 回	(IV) 日本版フェア・ディスクロージャー・ルール	(1) その背景・ルールの概説
第 14 回		(2) 2つのコード(コーポレートガバナンス、スチュワードシップ)
第 15 回	市場と経営を結ぶ情報開示が果たす役割	
第 16 回		

**到達目標**

企業の株主・投資家向け情報開示の活動、情報拡散の仕組みを学び、金融・証券分野に対する確かな知見を習得する。

**履修上の注意**

授業では、毎日の経済や金融・証券の動きを実例として取り上げるので、日々の経済や企業に関連する報道に関心を持ちたい。

**予習・復習**

企業の情報開示活動をよく理解するために、配布資料や指定テキストの予習・復習は欠かせない。

**評価方法**

受講態度不良者は「不可」の評価とします。評価は授業中の議論、レポートなどを総合的に判断し、評価します。そして講義への積極的な参加(積極的な発言など)によって加点します。

**テキスト**

- ・教科書名：『イチから知る！IR実学』
- ・著者名：米山 徹幸
- ・出版社名：日刊工業新聞

また講義向けに配布資料を用意します。もちろん、参照する図書や文献も、授業で適宜、紹介します。